=-=-=-

■昨年の世相を表す漢字「絆」

昨年３月の大震災では国内のみならず、全世界からの支援の手が寄せられて、そこには多くの絆が生れました。
まさに昨年の世相を表す漢字はこの「絆」でした。
昨年の「なでしこジャパン」の活躍も監督や選手同士の絆があってこそのチームプレーの賜でした。
新年の大学箱根駅伝は東洋大学が圧倒的な強さで優勝しました。一方で復路の戸塚や鶴見の中継所では、たすきを繋げることが出来なかったチームがありました。
選手の必死の形相にはこの絆を絶ってはならないという思いが表れていたようです。

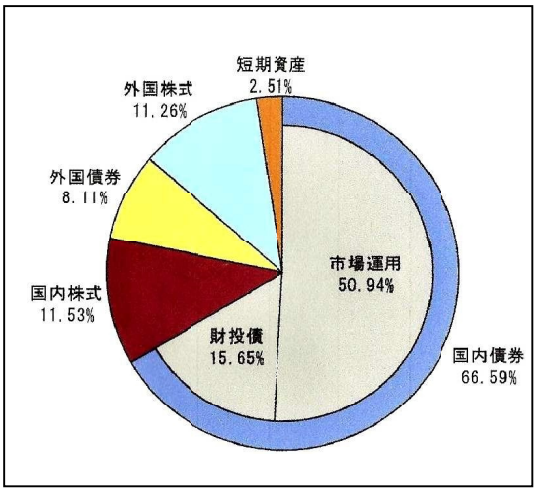
シニアクラブとしてもこの絆を大切にして、お互い元気に良い年を過ごしていきましょう。

■トピックス「年金交付国債」

政府は平成24年度予算案策定の中で、基礎年金の国庫負担割合を50％に維持するため必要な2.6兆円を賄うべく年金交付国債の発行を決定しました。
社会保障費用をはじめとして年々増加する国の支出をまかなう苦肉の策といえるでしょう。国はこの交付国債の発行と引き換えに、“年金積立金管理運用独立法人”（GPIF）から積立金を取り崩して2.6兆円を借用することになります。
そして、消費税の増税が実現した暁にそれを返済するという仕組みです。

交付国債は一般会計に計上する必要がないため、政府としては新規国債発行額を約44兆円以下に抑える目標を達成したと言っています。
しかし消費税増税が実施されなければこのお金は戻ってきません。これではますます消費税増税の流れの外堀を埋められてしまう感じがします。

GPIF が運用する年金積立金は平成22年度末で約116兆円、21年度末から約6兆円の目減りをしています。安定した年金制度を維持していくためにもこのような年金積立金に手をつけるような方策は採ってもらいたくないところです。



総額116兆円の資産構成割合
（平成22年度 GPIF 資料）

■事務局から

昨年 10 月に会社は完全に統合して新体制で始動しました。
一方で、労働組合は日本ビクター、ケンウッド共に従来どおりそれぞれの組織として活動しています。今後、この体制をどのようにしていくのか、双方の労組で話し合いが進められています。
シニアクラブとしてもこの状況について労組幹部との情報交換を行いながら進展に注目をしているところです。

事務局長　田代　周